



牧場WEB視察研修会を開催！ ～仲間の牧場を参考に、酪農経営の向上につなげよう～

DF NEWS DFニュース 2023年3月号

参加者の感想

- 2牧場ともまったく違う経営方法で、一度にそれが見られるのはWEBの利点だと思う。通信環境も良く、牧場の様子がよくわかった。
- 総合的な学習の時間で酪農について学んでいる、特別支援学級の4・5年生4人と一緒に見学した。子ども達がいつも以上に思ったことを言葉にしていたのが印象的だった。
- オンライン牧場視察はいろんな地域の牧場を見られるのがいいと思う。規模が違っても、それぞれの考えや牧場の試行錯誤が見られる。知らない情報を聞けて勉強になる。
- 自分の知らなかった知識が吸収できた。地域や地形によって牛舎の構造や工夫が違っていると感じた。一日で離れた複数の牧場を視察出来るのはオンラインならではの良さだと思う。

牧場紹介者の感想



●(有)石川ファーム 石川 賢一さん

今、酪農情勢は非常に厳しいが、過去にも何度も大変なことを乗り越えてきた。乗り越えた先に光が見えてくると思うので、みなさんと情報交換しながら、一歩ずつ前に進んでいきたい。コロナ禍になったからこそできるようになったオンラインは、自宅に居ながら視察できるのが強み。これからは対面もオンラインも参加して会員同士交流していきたい。



●大井牧場 大井 幸男さん

オンラインの良いところは、見せたいところを見せられる点。自分の牧場のように、色々なものが点在している場合は、大勢での対面視察だと時間がかかるため、今回のようなオンラインに向いているのかもしれない。それと、自分がどのように映っているのかが分からないのが不安だった。

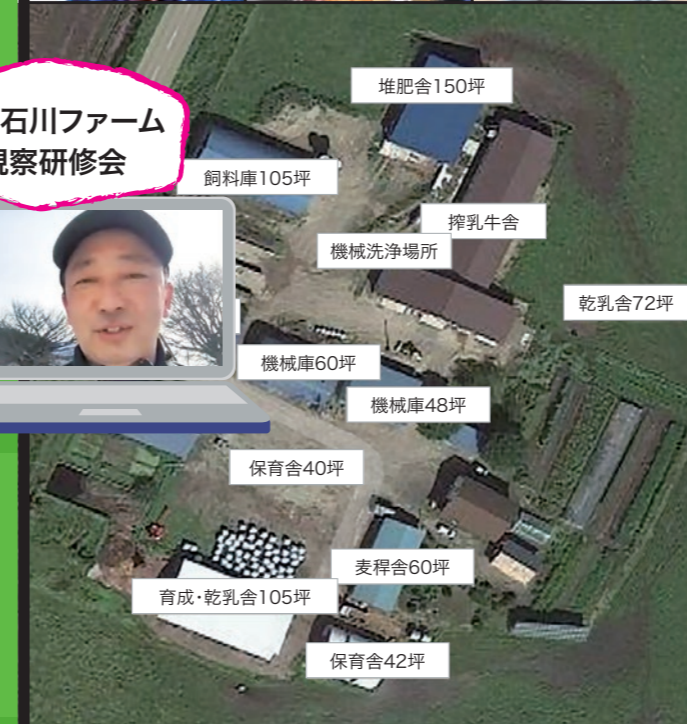


司会進行:小笠原理事
[愛知県・(有)小笠原牧場]

石川さん、大井さん、進行役の小笠原さん、ありがとうございました!!



(有)石川ファーム 視察研修会



大井牧場 視察研修会



デーリマンへの執筆者大募集!!

酪農雑誌デーリマンで連載している「交牧連の活動日誌」が、好評につき、令和5年度も継続されることになりました。

我こそ執筆したい! という方は、中央事務局までご連絡ください。

なお、過去の記事は交牧連のホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください!

過去の記事 <https://www.dairy-farm.jp/dairy-man-2022-2023/>

問合せ先:中央事務局

TEL:03-6688-9841 Mail:koubokuren@churaku.jp



発行日/2023年3月 発行/地域交流牧場全国連絡会 〒101-0044 東京都千代田区蔵前町2-6-1 堀内ビル4階(社) 中央酪農会議内
TEL03-6688-9841 FAX03-6681-5295 ホムページ <https://www.dairy-farm.jp/>

牧場WEB視察研修会を開催！

～仲間の牧場を参考に、酪農経営の向上につなげよう～

コロナ禍により、対面での活動ができない状況が続いていましたが、最近では規制が緩和されはじめ、徐々に交牧連の活動を再開している地域もあると思います。そうした中、WEBを活用した取組みの一環として、令和2年度から継続してきた「牧場WEB視察研修会」は、今年度で3回目の開催となりました。

自宅にいながら仲間の牧場を視察できるこの取組みは、それぞれの経営のヒントや知識の習得に繋がります。今後、対面での活動が再開した時も、交牧連が3年間蓄積してきたノウハウを踏まえ、価値ある活動として継続していければと思います。

研修会の概要

- ① 趣 旨：交牧連の会員及び関係団体の役職員等がWEB上で集まり、会員牧場の視察を通じて相互研鑽することで、各々の酪農経営や業務の向上につなげる。
- ② 日 時：令和5年2月1日(水)13:00～15:20
- ③ 手 法：オンライン(ZOOMを使用)
- ④ 視察先：(有)石川ファーム(北海道網走郡津別町) 大井牧場(岐阜県羽島市)
- ⑤ 参加者：42名(交牧連会員、指定団体及び指定団体会員の役職員など)
- ⑥ プログラム

開始時	分	内 容
13:00	10	開会・事務連絡
13:10	20	主催者挨拶/来賓挨拶
13:30	50	(有)石川ファームの視察・質疑応答
14:20	50	大井牧場の視察・質疑応答
15:10	10	感想・事務連絡
15:20		閉会

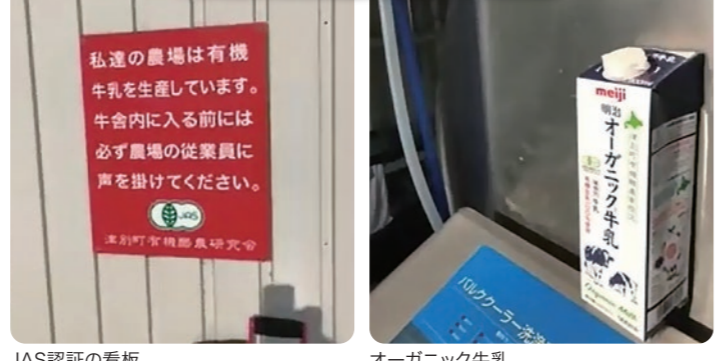


■ (有)石川ファーム・石川 賢一氏

(有)石川ファームは、有機JASの認証を取得し、オーガニック牛乳の原料乳を生産、GAP認証も受けています。「牛は健康的に、作業は省力化」をモットーに、毎日17時半には作業を終了。また、国産飼料100%を目指しています。施設内は綺麗に整理整頓されていて、参加者からも「牛舎が綺麗!」などの感想が多数ありました。当日は0℃という寒



Q: 津別町でオーガニック牛乳の原料乳を生産しているのは何戸ですか?
A: 3戸で経産牛約270頭を飼養。有機認証の餌は、全てTMRセンターで調整してもらっている。



JAS認証の看板 オーガニック牛乳



整理整頓された清潔な搾乳牛舎。



搾乳牛舎の中は、-5℃以下にならないよう温度センサーをつけて風量で自動調整している。



クラスター事業で導入した自動給餌機。5時から16時まで1日8回給餌している。



元バンカーサイロだったものを、屋根をつけてTMRセンターからの餌の一時保管として利用。

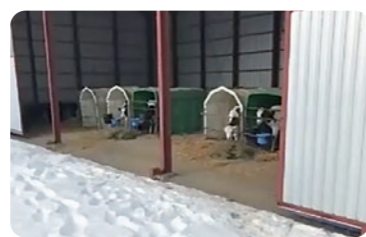
Q: 蜘蛛の巣はどうしている?
A: 殺虫剤は有機で使えないため、コンプレッサーで対応している。



有機飼料を一時保管する飼料庫。仲間の分も含めてここで保管し、TMRセンターに運んでいる。



昨年、北海道で収穫された有機の子実トウモロコシ。



見取り図の航空写真撮影後に建てた保育舎。基本的に全乳哺育。直射日光を当てることで、ヒーターやジャケット無しでも丈夫に育つ。夜や風が強い日は扉を閉めている。



山の手前まで全て放牧地。夏は基本的に放牧、冬も1日3時間程度放牧している。



■ 大井牧場・大井 幸男氏

大井牧場は公道のすぐ脇に壁のない牛舎が建っていて、地域住民がすぐそばまで来ることができます。また、道路を挟んだ河川敷50haを利用して粗飼料を自給しています。「ここ(大井牧場)の牛乳を飲みたい!」を目指し、離農した近隣の農家から牛舎を借りるなどして、点在する施設を活用しながら100%自家育成をしています。当日は近くの伊吹山からの冷たい風の中、移動しながらたくさんの施設を紹介いただきました。



Q: 河川敷の更新方法と作業性は?
A: 不耕起。一部木があるが、基本的に国土交通省が整地してくれる。



2 長良川の河川敷で牧草を自給。3番草まで収穫できる。



河川敷で使用する草刈り機とロールペラー。奥に見えるのは飼料米の袋。飼料米は、消化に良いようにできるだけ細かく粉碎している。



3 フリーバース牛舎。エサ寄せロボットはプログラムにもとづき、夜中も稼働させている。



4 1年間で約1,500個のロールができる。



妊娠前の育成牛17頭。WCSと牧草を交互に与えている



6 24時間稼働させ、1週間堆肥化する。堆肥は100%販売している。



6 建設中の堆肥舎。



Q: 周りにまだ酪農家はいる?
A: 昔は集落のほとんどが牛を飼っていたが、今は3戸しかいない。

7 離農した農家から借りているつなぎ牛舎。哺乳口ロボットから帰ってきた育成牛の鳴き声が賑やか。



Q: 子牛の下痢予防は?
A: 有機で予防剤が使えないため、基本は対症療法だが、全乳哺育のため下痢はあまりしない。下痢をしたら乳酸菌を与えている。

Q: 経験上、これをしたら失敗するという事は?
A: 何もしないことが失敗。どんどんチャレンジして、失敗から学ぶことが一番身につくのだと思っている。

